

令和4年度事業報告書 <白楽荘・介護課>

**テーマ：非常災害（感染症・自然）の避難計画に基づき、安全・安心あるサービスの提供と
人材の確保に努める**

～安心して働ける職場として利用者・職員双方への優しいケアの実現～

**サブテーマ：入所者の思いに寄り添い信頼関係を築き、職員が能力を発揮できるような働きやすい
環境整備に努める**

1. 入所者の安心と安全を優先としたサービスを提供する

- ①11月に入所者1名が、他科受診後にコロナ陽性者となり、感染が広がる。保健所指導により約40日間もの間、汐見・桜谷の52名に対してレッドゾーン対応となり、入所者には食事・入浴制限などのQOL低下となる不自由な生活と不安を与えてしまった。家族にはLINEでの報告を行い、苦情や入所者のADL低下に繋がることはなく収束できたのは良かった。その後は職員健康チェック、定期的な抗原検査の実施等、感染予防策の徹底を継続している。
- ②感染、防災の業務継続計画（BCP）の作成は、ほぼ完成している。コロナ禍で実践的な集合訓練が出来ず。今後は体制作りを整備し、職員に周知し、完成させていく。
- ③毎月虐待芽摘みチェック表の記入をメインとし、自分自身のケアを振り返ることや上司の確認より相互の意識向上となり、不適切ケアを未然に防ぐことが出来た。接遇面においては、スピーチロックを含めて、言葉の拘束が常態化しないように、職員が意識して対応していた。
- ④LIFEの活用を通じて、毎月チーム毎に会議を開き、入所者の状況確認やケア方法の見直し、多職種による検討会を重ね機能維持に繋げている。iPadの活用方法が写真と動画だけになっている為、活用方法の幅を広げ、職員の情報共有努めた。
- ⑤R5、3月3日に福井県健康福祉部地域福祉課より、コロナ対応の為2度の延期後に運営指導を受け、書類、研修、加算の取得に対して「是正又は改善を要する内容なし」として、各項目が適正に運営されていると評価あり、返戻事項もなかった。
- ⑥診療所鷺田Drが入院後亡くなられ2か月程の主治医不在により、看取りケアが困難となり、入院や死亡退所が続きました。新規入所は地域にコロナ感染者が第7派により増えたため、在宅・病院からも受け入れ困難な状態が続き、空床の状態が続いた。

2. 風通しが良く、魅力ある職場を作り、職員が働きやすい環境を作る。

- ①施設内にて前、後期2回の実務者研修を実施、職員2名受講し、資格取得する。その後介護福祉士を受験し2名とも合格し、資格取得する。その他にも看取りや防災、認知症ケア、吸痰、新人研修

等に各職員が参加し、スキルアップを図ることが出来た。キャリアパスの研修費用は、全て処遇金から施設が負担する。

- ②業務改善を行う中で、腰痛帯の購入を促し、福利厚生として補助することで、職員の負担軽減に努める事が出来た。また、コロナ禍で制限も多く、ストレスが掛かるため面談を行い、日頃の悩みや思いを確認、必要に応じて異動をおこない、離職を未然に防ぐことが出来た。有給休暇も各チーム計画的に取得できたが、コロナ禍の中で陽性者、濃厚接触者となり、出勤者の減少、保健所指導より予防着使用でのケア対応による緊張感の継続、プライベートでも感染予防の行動制限がある中で、福祉職員としてのストレスは多く聞かれた。
- ③技能実習指導員講習を新たに2名の職員が受講し、今後、技能実習生2期生を迎え入れる準備を行っている。また、技能実習生が満3年経過し、特定技能実習生として一般職員と同等の業務にて勤務する。